2020 年度実施概要

学校名

福島県　只見町立只見中学校

採択活動名

海を意識しての生活を考える　～海洋と結びつく只見の生活～

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海洋プラゴミ（特にマイクロプラスチック）の実態を探る	３学年	総合学習
2. 海洋プラゴミを実際に体験する	２学年	総合学習
3.		

取り組みの概要

１. 海洋プラゴミ（特にマイクロプラスチック）の実態を探る

３年生は修学旅行の行き先を変更して、宮城県東松島市で海洋プラゴミについて、現地で講義を受けながら拾い集めることができた。最初は砂かプラゴミか判断できない様子だったが、講師を務めて下さったケンタロ・オノ氏が、丁寧にマイクロプラスチックを拾いながら説明を続けてくれた。子どもたちからは、(プラスチックが）大きなうちにきちんと処理がされていれば、このように粉々にはならないのにという意見が出された。それでも、今回の海岸は昨年行った日本海の海に比べると、非常にきれいな砂浜で大きなゴミなどは非常に少なかった。

２. 海洋プラゴミを実際に体験する

２年生は、海を体験する活動で新潟県上越市の海岸で、海浜のゴミ拾い活動を行った。昨年度も同じように活動したが、この活動によって子どもたちの意識が変わり、山あいから海を考えるきっかけとなった。今年度も、２年生で同様の活動を行った。生活ゴミを主とするプラゴミが非常に多いこと、海外のペットボトルや、ハングルや簡体字が書かれてある漁具などが目立った。上流で生活する自分たちの責任も強く感じたという。また、意識は変わらず持ち続け、２月に学校で開催した『校内雪像作りコンテスト』では海を題材にした作品も作られ、子どもたちの意識の高さを見ることができた。